



# あさひ台

学 校 報  
第 4 8 6 号  
R3. 8. 27  
五城目小学校

学校教育目標

夢高く 心たくましく 学び合う五小の子  
～ つなぐ ひらく つくる ～



「五太郎」

## 環境教育からふるさと五城目を見つめ直す...

校長 小玉 史男

相撲場のある五小パークに大きくて青いモグリウムがあることはご存じでしょうか。7月7日(水)に設置されたモグリウムは、「もぐ+アクアリウム」から名付けられました。「もぐ」とは「水草」の総称で、この大きな水そうも「水草」を育てるために設置されました。しかし、育てている水草には大きな秘密があります。八郎湖干拓前の地層から掘り出してきた土の中で眠っていた種から、発芽して育った「水草(コウガイモ・セキショウモ・クロモ・エビモ)」なのです。まさに八郎湖古来の在来種であり、五城目小モグリウムで育った「もぐ」がいつか八郎湖に戻っていくことができれば、少しずつでも豊かな環境を再構築する力になれるのかもしれない。



〔五小パークにあるモグリウム〕

そんなモグリウムにいつの間にかトンボのヤゴが数十匹住み着いていました。設置して水道水を入れてから約1ヶ月半の間に、トンボが卵を産み、その卵がかえってヤゴとなり生きています。ヤゴが生活し、成長していくためにはえさとなる生き物もいなければなりません。まだ十分な調査はしていませんが、ミジンコなどの生き物も豊富に住み着くことができる環境だと考えることができます。どんな水生生物を見付けることができるでしょうか。今後の子どもたちの観察や調査を楽しみに待ちたいと思います。



〔順調に育つ4種類の水草〕

ところで、ここにいるヤゴは何という名前のトンボになるのでしょうか。水の中で生活するヤゴがトンボになるところはなかなか直接観察することができません。そのため、モグリウムに棒を立てておくことにしました。棒のようにつかまるものがなければ、羽を広げる(羽化する)ことができないからです。水の中からその棒を登り、しっかりと羽を広げて飛び立つことができるのでしょうか。それともヤゴのまま、冬を越すのでしょうか。トンボの種類は、その抜け殻からも判断することができます。いつ、どんな抜け殻が何個見付かったかを調査すれば、トンボはどんな種類がいて、何匹飛び立ったのかを知ることができます。しばらくは、ヤゴがトンボになる日を楽しみにしながら、子どもたちと一緒に静かに観察していきたいと思います。

このようなモグリウムやビオトープを通して学ぶ環境学習は、子どもたちの興味・関心を引き出します。目の前にある馬場目川の環境についても水の中にどんな水生生物が住んでいるのかを調べることで、水の汚れや今の環境について考えることができます。何気なく使っている水の大切さ、自然の豊かさを再認識することができると思います。

子どもたちが学ぶ教室からは、日々美しく姿を変えながら見守ってくれる森山の姿が見えます。目の前には夕日に輝く美しい馬場目川が流れています。誰もが思い浮かべるふるさとのシンボルであり、遠く離れて暮らす方々にとってはふるさとそのものと言えるかもしれません。ここ雀館公園エリアだからこそできる学習を通して、心豊かでふるさと五城目町のよさを愛する人材を育てていきたいと考えています。

